

平成23年度石川県立翠星高等学校 学校評価最終報告書

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	判定	集計結果	分析(成果と課題)及び来年度に向けて(改善策等)
1 地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	校内の環境・美化に積極的に取り組む。	校内の環境・美化に積極的に行動した生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	B	校内の環境・美化に積極的に行動した生徒の割合は70%であった。	今年度新たに設けた取り組みである。定期的に設定している「マナー・環境美化週間」等の取り組みにより、生徒の意識も高まってきたように思える。来年度は新たな取り組みも考え、継続して取り組みたい。
	ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は59%であった。	従来から取り組んでいるハマナスの保全活動や里山里海を保全することの大切さをテーマとした講演会の実施等により、生徒の意識は若干向上したが、引き続き粘り強い取り組みが必要である。
	地域の環境保全のためのボランティア活動への積極的な参加を奨励する。	地域の環境保全のためのボランティア活動に参加した生徒の割合は A 50%以上である。 B 40%以上50%未満 C 30%以上40%未満。 D 30%未満	C	地域の環境保全のためのボランティア活動に参加した生徒の割合は35%であった。	ボランティア活動への取り組みはまだ不足している。来年度は生徒への効果的な働きかけを行うなど、工夫した取り組みが必要である。
学校関係者評価委員会の評価	「里山里海の保全」に前向きに取り組んでいる点は評価できる。里山里海については大人でもわかっていない人が多いのではないだろうか。今後とも粘り強く取り組んでほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	「里山里海の保全」の大切さが生徒に理解できるよう、講演会だけでなく、実習等を通して生徒が実感できる取り組みを企画するとともに、「魅力ある県立学校づくり推進事業」にも応募し、真に全学的な取り組みとなるようにしたい。				
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	10分間の朝学習(翠星タイム)を実施し、基礎学力等を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	B	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合は73%であった。	朝学習の時間(翠星タイム)も定着し、基礎学力の向上に結びついていると考える生徒は、前年度よりも12%増加している。また、保護者からも基礎学力を身につける有意義な機会であると肯定的な回答を寄せていただいている。(85%)今後とも継続して取り組みたい。
	生徒の授業評価アンケートや研究授業、互いの授業参観等を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	B	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は70%であった。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は、昨年度に比べ、28%増加している。今後は、生徒主体の授業にも積極的に取り組み、学力の定着に一層取り組みたい。
	適切な課題を課し、家庭学習の習慣化に取り組む。	家庭学習に取り組む生徒の割合は A 80%以上であった。 B 60%以上80%未満であった。 C 40%以上60%未満であった。 D 40%未満であった。	D	家庭学習に全く取り組んでいない生徒の割合は64%であった。	家庭学習に全く取り組んでいない生徒の割合は前年度よりも増加している。「定期的に課題を出し提出させて点検する」という地道な取り組みを徹底させ、家庭学習の定着をはかりたい。
	3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	各年次のキャリア教育が進路の参考になった生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	B	キャリア教育が進路の参考になったと答えた生徒の割合は77%であった。	本校のキャリア教育は、1年生における学校設定科目「キャリアガイダンス」および2年生での「インターンシップ」、3年生での「長期型企業研修」を柱として行っており、成果はは出ている。一般に高いといわれる離職率を是正する意味からも今後とも継続して取り組みたい。
学校関係者評価委員会の評価	家庭学習については、試験前は少ないかもしれないが、試験前には取り組む生徒は多いと考えられる。確かに家庭学習の習慣化は大事であるが、あまり加重負担をかけると、欠席者がふえてくるのではないだろうか。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	家庭学習の定着については、生徒の負担も考慮しつつ、各教科で連携をとり、適度な課題を出し、各学年で取り組んでいきたい。				

平成23年度石川県立翠星高等学校 学校評価最終報告書

3	社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	登校指導や授業等を通して挨拶の習慣化に積極的に取り組む。	自発的に大きな声で挨拶できる生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	B	あいさつがしっかりできている、あるいはある程度できていると答えた生徒の割合は70%であった。	あいさつがしっかりできている生徒の割合は昨年度よりも10%程度増加している。生徒に自信が付き、積極性がでてきた現れであると解釈したい。挨拶は社会に出てからも重要なので今後ともしっかり取り組みたい。
		基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	前年度に比べ遅刻者の減少割合は A 30%以上であった。 B 20%以上30%未満であった。 C 10%以上20%未満であった。 D 10%未満であった。	D	遅刻者の数は前年度に比べ、増加した。	遅刻者の数を減少させるため、朝の登校指導に毎日取り組んできたが、残念ながら結果に結びつかなかった。来年度は指導方法等を再検討し、結果を出さねばならないと痛感している。
		社会人として必要なマナーの向上に取り組む。	マナーが向上したと思う生徒の割合は A 90%以上であった。 B 80%以上90%未満であった。 C 70%以上80%未満であった。 D 70%未満であった。	C	マナーがとても向上している、あるいはある程度向上していると答えた生徒の割合は79%であった。	判定はCであるが、設定目標が高いということもあり、決して悪い数値ではないと考えている。来年度は設定目標の見直しも含めて検討したい。
学校関係者評価委員会の評価	遅刻者を減少させるためには、保護者の協力が不可欠である。時には厳しい指導を必要ではないか。校長、PTA会長連名で協力を要請してみてもどうか。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	提言を踏まえ、生徒指導課を中心に新たな方策を立て、教職員一丸となり、保護者の協力を得ながら、遅刻者の減少に取り組むたい。					
4	部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	講演会や研修会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	部や研究会活動などに積極的に活動した生徒の割合は A 70%以上であった。 B 60%以上70%未満であった。 C 50%以上60%未満であった。 D 50%未満であった。	B	積極的に取り組んでいるあるいはある程度取り組んでいると答えた生徒の割合は60%であった。	積極的に活動した生徒の割合は昨年度より10%増加した。昨年同様、水曜日には会議を入れず、顧問が指導できるよう配慮した。部活動や研究会活動において生徒に自信と存在感をもたせることが大事であり、今後とも積極的な参加を促す指導が必要だと考える。
		農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者の増加に取り組む。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上であった。 B 11名以上16名未満であった。 C 6名以上11名未満であった。 D 学校枠のみの6名であった。	C	農業鑑定競技 5名 平板測量競技 3名	各コースにおいてプロジェクト活動への取り組みを行い、全コースからプロジェクト発表会への出場を果たした。今後とも、熱意をもって指導を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動の加入に関しては、研究会への加入率が低いようである。農業クラブ大会でのプロジェクト、意見発表は生徒にとってもよい経験となるので、ぜひ研究会への加入率を高めてほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	研究会活動や部活動、農業クラブ活動においては、顧問の熱意が一番重要である。活性化に向けて、全校あげて取り組んでいきたい。					